

8. 沿岸漁業重要資源調査 (2) ソデイカの資源動態調査

担 当：太田武行（増殖技術室）

実施期間：平成 5 年度～（平成 25 年度予算額：沿岸漁業重要資源調査 8,883 千円うちソデイカに関する予算額 223 千円）

1) 目的

近年、本県の夏季～冬季の沿岸漁業を支える重要な資源となっているソデイカについては、その生態学的知見や資源学的知見は非常に少なかった。しかし、2004～06 年度に鳥取県、兵庫県、近畿大学、九州大学、水産大学校、日本海区水産研究所との共同研究が実施され、本種の基礎生態に関する情報が収集された。本事業はこれまでに得られた情報と漁期前試験操業によりソデイカの漁況予測情報を発信した。

2) 方法

- ・鳥取県漁協賀露本所所属の組合員の漁船を 2 隻用船し、2013 年 8 月 8 日に試験操業を実施・試験操業は、樽流しで行い、A 船（沖側）は 35 樽、B 船（岸側）は 30 樽を使用した。
- ・操業場所は、表 1 のとおりである。
- ・また試験船おしどりで、2013 年 8 月 12 日に試験操業を実施

表 1 2013 年ソデイカ漁期前試験操業の操業位置と釣果

月日	使用船	漁具数 (樽)	投入			回収			釣果	
			水深	緯度	経度	水深	緯度	経度		
8月8日	賀露所属A船 (沖側)	35	浅	239m	35° 45.002	134° 08.973	250m	35° 45.884	134° 10.342	0杯
			深	269m	35° 46.488	134° 08.937	283m	35° 47.208	134° 09.486	
	賀露所属B船 (岸側)	30	浅	210m	35° 43.293	134° 09.020	227m	35° 44.168	134° 10.968	0杯
			深	238m	35° 44.873	134° 09.050	245m	35° 45.464	134° 09.974	
8月12日	おしどり	8	浅	131m	35° 42.344	133° 57.190	144m	35° 42.762	133° 58.010	1杯
			深	150m	35° 42.947	133° 57.414	172m	35° 43.142	133° 57.856	

3) 結果

- ・2013 年の漁獲量・金額は、175 トン、68 百万円で 2012 年の 238 トン、77 百万円から減少した。
- ・2013 年の盛漁期の漁獲物組成は胴長 48cm 以上でモードの山が複数あり、漁期前半に複数の来遊群が加入したことが示唆された。
- ・ソデイカ漁期前試験操業では、釣獲はなかったものの、調査での補足調査で例年より早い鳥取沖への来遊を確認した。

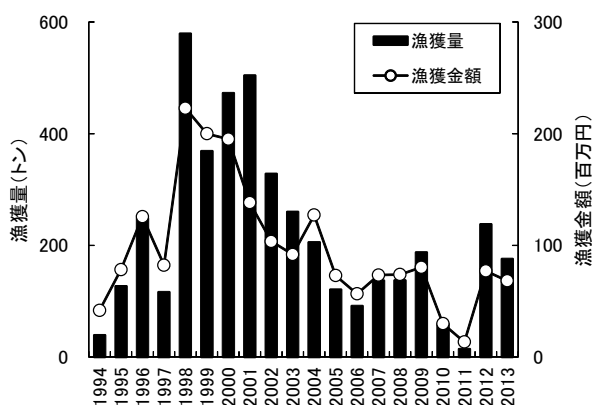


図 1 鳥取県のソデイカの漁獲量と金額の推移

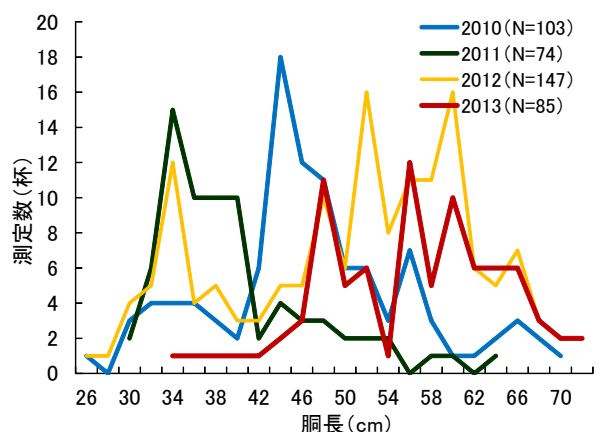


図 2 賀露地方卸売市場における 10 月下旬から 11 月上旬のソデイカの胴長組成

4) 考察

今期の漁獲量は、図 4 のとおり 313 トンと予測をしたが、実績は 175 トンと少ない結果となった。この誤差については、2013 年夏以降の対馬暖流は、従来の鳥取県沖（長尾鼻沖）で見られる蛇行が見られず、かなり東側で蛇行し接岸したため、ソデイカは日本海に多数来遊したものの、鳥取沖で漁

場形成されなかった（ソデイカの滞留が少なかった）ことが原因と考察された。

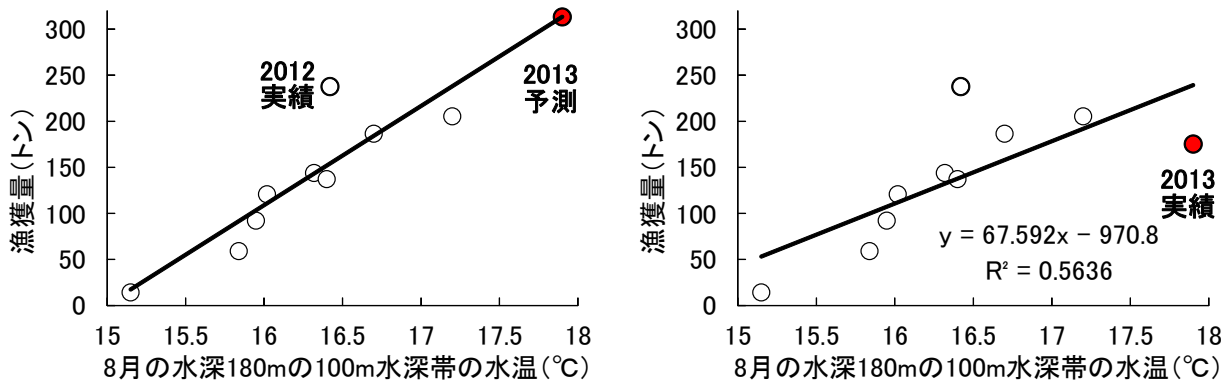


図4 鳥取県中部の8月の水深180m地点の深度100m水温と鳥取県のソデイカの漁獲量（左図：予測，右図：実績）

5) 残された問題点及び課題

漁況予測はある程度の精度でできる状態にある。しかし、漁場が沖合であることもあり、漁況予測を行うことは、沿岸漁業者の省エネ・省コスト型漁業への促進に必要な情報であり、引き続き調査が必要ある。